

半年を振り返って

今年もいよいよ残すところ僅かとなりました。コロナが収束してきたと思ったら、世界ではロシアによるウクライナ侵攻の継続、ガザでの紛争、気候変動による災害、本邦では政界や芸能界での不祥事となにかと話題が多く慌ただしい半年でした。

以下6月以降の日本臨床泌尿器科医会の動きについてご報告します。

*今年第3回、第4回の常任理事会、理事会を7月、11月に開催しました。さらに12月には会員増強に特化して常任理事会を開催しました。

*第27回日本臨床分科医会代表者会議が10月26日東京で開催されました。内科、臨床外科、臨床整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科、脳神経外科、精神神経診療所、臨床皮膚科、放射線専門医、皮膚科、当会の13医会の代表者36人が参加、当会からは在京の斎藤、正井副会長、矢内原常務理事と私が参加しました。日本医師会からは釜范常任理事が会議に参加されご挨拶されました。以下会議内容の要旨を箇条書きで報告致します。

1 各診療科の作業内容と現状報告

働き方改革、在宅診療での各科の診療報酬加算、hpvワクチンの推進、会員の減少、産科の保険適応はこのままでは逆効果、小児医療の危機(韓国でも今年小児科医希望が36人)、など当会からは会員増加にむけてhp、X【jcu2023】による発信への注力、全国21医会の連携と情報共有、薬剤の欠品、尿道カテーテルの逆鞘について、

2 各科共通の課題

医学部生の過剰(矢内原先生から薬学部の危機的現状の紹介)、診療科の地域での偏在について、薬剤の欠品

共通課題については日本医師会でも継続して検討すると釜范先生の発言がありました。その後懇親会があり途中で自見はなこ大臣が挨拶にこられました。

*日本臨床泌尿器科医会第19回臨床検討会が、11月26日山形国際ホテルにて常任理事である寒河江市民病院事業管理者の久保田洋子先生を会長として開催されました。

泌尿器科医療の前進～臨床の現場から～のメインテーマのもと学会とは一味違ったより臨床現場での問題を取り上げた演題、教育講演、ランチョンセミナーで活発な議論が交わされました。

*以下当会作業部会について報告します。

保険部会は東京の富士常任理事を中心に来年の診療報酬改訂項目の外保連提出に取り組まれています。

学術部会は北海道の松村常任理事が広報の矢内原常任理事と共に会員用のホームページに保険診療報酬のスライド動画を2編作成、掲載されました。

医会連携部会は愛知県の服部理事、大阪の仲谷理事を中心に全国21泌尿器科医会のうち13医会の代表がweb会議を開催、各地域医会の現状を情報共有しました。以前は保険の審査についての情報交換がされ、今回は災害時の泌尿器科医の役割について話される予定です。

勤務医部会は山形の久保田常任理事、大阪の高尾理事が中心となり勤務医の声を取り上げ、働き方改革について検討しています。

オフィスウロロジー部会は岩佐専務理事が再来年の日泌総会でのプログラムについて検討を始めました。

少しずつではありますが一歩ずつ着実に当会が泌尿器科診療に貢献できるよう歩を進めて参りたいと考えております。当会は泌尿器科診療をしている全ての先生方の会です。医療の中で泌尿器科診療の発言権を広げるために特に若い勤務医、開業医の先生方のご入会をお願い致します。

令和5年12月26日

会長 清原久和